

## 特定非営利活動法人日本文化体験交流塾

## 第 17 期（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）収支予算・事業計画書

## 第 1 NPO 法人全体の収支計画

## 1 収入および支出の計画

## 2

## (1) 収入計画

単位：円

項目		第 17 期 (目標)	第 16 期	第 15 期	第 14 期
開始年		2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
年会費 収入	入会金	2,233,000	1,778,000	458,200	360,000
	年会費	15,200,000	13,370,000	9,942,300	9,774,000
	年会費・ 入会金計	17,433,000	15,148,000	10,400,500	10,134,000
	前年度比較	115%	145.6%	102.6%	85.4%
研修事業 収入	(1) 新人研修	6,890,000	5,511,255	2,634,231	2,760,462
	(2) ガイド研 修	15,350,000	12,281,390	11,029,472	16,279,987
	(3) バス研修	6,050,000	4,838,096		
	(4) 日本文化 研修	11,720,000	9,376,783	4,924,787	3,105,036
	(5) 通訳案内 士研修	3,200,000	2,564,006	2,359,538	311,225
	(6) 旅程管理 研修	1,690,000	1,102,546	506,960	—
	研修事業計	44,900,000	35,674,076	21,454,988	22,456,710
	同上対前年度 比較	125.8%	166.3%	95.5%	131.2%
出版事業 収入	出版事業計	1,000,000	852,167	755,641	2,319,737
	その他	1,100,000	621,514	1,811,421	180,302
総収入		64,433,000	52,295,757	34,422,550	35,090,749
同上対前年度比較		123.2%	151.9%	85.5%	98.1%
総費用		64,400,000	54,241,963	34,185,369	35,647,544
当期正味財産増減額		33,000	△1,946,206	△237,181	△556,799

## (2) 支出計画

	項目	第 17 期見込	第 16 期実績	第 15 期実績	第 14 期実績
	開始年	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
事業費	(1) 人件費 (講師謝礼・助手)	16,400,000	13,340,498	8,416,763	5,768,055
	(2) 運営経費その他 (業務委託費、システム利用料、諸会費等)	39,000,000	34,205,037	19,265,255	20,947,659
事業費計		55,400,000	47,545,535	26,715,714	27,682,018
管理費	(1) 人件費	2,700,000	2,629,864	2,990,007	3,710,473
	(2) その他経費	6,300,000	3,996,546	3,513,344	5,221,357
管理費計		9,000,000	6,626,410	8,931,830	6,503,351
費用計 (法人税等除く)		64,400,000	54,171,945	35,647,544	34,185,369
同上対前年度比較			152.0%	104.3%	95.9%

## 第2 基本方針

昨年度は、2022年10月以降のインバウンド再開期にあたった。この1年間をとおして、新型コロナウイルス感染症の低迷期を越えて、再開した今後のインバウンドの動向が明確になって来た。その特徴は、以下の3点である。

### (1) 訪日客の増大に対応した量的な対応

JNTOによる10月の訪日外客数は、以下のとおりである。中国からの訪日客数が64.9%と減少しているにも関わらず、総数で2019年を上回った。特に、米国、カナダ、豪州の伸び率が20%~38%増に達している。中国を除く各国の総計の伸び率は、28%増に達している。

この増加のトレンドは、今後も続くと言われており、2024年は、中国を除く各国の総計の2019年比伸び率は、40%増程度になると予想される。

当交流塾として、急激に増加するガイド需要に対応していく。

## 2023年10月 訪日外客数（JNTO推計値）（対2019年比）

Visitor Arrivals for Oct. 2023 (Preliminary figures by JNTO)(Compared to 2019)

国・地域	Country/Area	総数 Total		
		2019年 10月	2023年 10月	伸率(%)
総数	Grand Total	2,496,568	2,516,500	0.8
韓国	South Korea	197,281	631,100	219.9
中国	China	730,631	256,300	-64.9
台湾	Taiwan	413,701	424,800	2.7
香港	Hong Kong	180,562	179,300	-0.7
タイ	Thailand	145,333	124,600	-14.3
シンガポール	Singapore	41,937	55,100	31.4
マレーシア	Malaysia	48,864	45,200	-7.5
インドネシア	Indonesia	34,094	40,300	18.2
フィリピン	Philippines	64,690	69,200	7.0
ベトナム	Vietnam	46,510	50,400	8.4
インド	India	13,929	16,800	20.6
豪州	Australia	51,563	62,000	20.2
米国	U.S.A.	153,363	211,900	38.2
カナダ	Canada	37,667	51,700	37.3
メキシコ	Mexico	7,385	12,500	69.3
英国	United Kingdom	68,401	37,400	-45.3
フランス	France	39,457	34,400	-12.8
ドイツ	Germany	26,276	30,900	17.6
イタリア	Italy	14,731	16,300	10.7
スペイン	Spain	13,739	15,500	12.8
ロシア	Russia	14,348	5,700	-60.3
北欧地域	Nordic Countries	15,094	14,400	-4.6
中東地域	Middle East	11,955	10,200	-14.7
その他	Others	125,057	120,500	-3.6

## (2)トレンドの変化と通訳案内士に対するニーズの変化

コロナウイルス後、以下の傾向が鮮明になった

- ① 特定観光地のオーバーツーリズムから、より広域的なアドベンチャーツーリズムへ
- ② 地球・環境の危機やエネルギー価格の高騰から、SDGsの尊重
- ③ 富裕層観光への対応
- ④ 単に見る観光から、体験型観光への深まり
- ⑤ 訪日客の多様化、多国籍化

新型コロナウイルス感染症によるパンデミック以降、シートインコーチ（Seat in Coach）と呼ばれる乗合型の観光バスツアーが減少している。バス料金の高騰や、アドベンチャーツーリズムの流行などが、その一因と思われる。これに伴い、16名以下で公共交通機関を利用して移動するグループツアーや、FITによるツアーが増加している。

今後は、こうしたツアーに対応できる通訳ガイドには以下のクオリティが求められる。

- ① 多様な質問に答えられる知識、
- ② 電車・バス等の乗り継ぎなどの旅程管理能力、
- ③ お客様の要望に応える接客力等が重視される。

結果として、2019年までに一定の実績を示したガイドに仕事が集中した。多くの旅行会社でガイド不足が問題となった。それとともに、ベテランガイドでもなくてもできる仕事、例えばホテル送迎、ショート観光の担い手が不足している。

当交流塾としては、このように、大きく変わるガイド需要に的確に対応できる人材育成を推進していく。

## (3)体験ニーズの高まり

コロナウイルス後、以前から高まりつつあった、感染症以前からの傾向であった訪日客のニーズの多様化がますます進行した。日本文化体験に対するニーズは高く、特に食にかかわる体験は、高いニーズがある。しかしながら、2022年春においては、首都圏で独創的な地位にあった True Japan Tour 株式会社の寿司体験も、今後、多くの同業他社の増加が予想される。

文化体験については、ただ提供するだけでなく、お客ニーズの把握、クオリティ、価格競争力などの様々な指標にどう対応するのかが、問われている。

## 第3 通訳案内士の活動基盤の向上に向けた取り組み

日本通訳案内士団体連合会（以下、「通団連」という）の一員として、国への要望活動を行う。

### 1 観光庁への働きかけ

#### (1) 観光庁の検討会

2023年9月、観光庁において、「ガイド人材の活性化に係る検討会」が設置された。目的は、以下のとおりである。

「インバウンドは、昨年10月の個人旅行解禁以降、着実に回復をしている一方で、回復する訪日外国人旅行者に対し、ガイド人材の不足等の課題がある。

また、通訳案内士法については、平成30年1月に改正を行い、通訳案内士を業務独占資格から名称独占資格に移行し、研修制度を充実するなどの施策を講じてきた。この改正から5年が経過し、制度改正のフォローアップも必要となっている。このような課題認識のもと、有識者等を含めた検討会を実施し、ガイド人材の活性化や通訳案内士試験制度等について、議論を行う。」

日本通訳案内士団体連合会からは、以下の2名が委員として、任命された。

- ・通訳ガイド・コミュニケーションスキル研究会 理事長 ランデル 洋子
- ・NPO 日本文化体験交流塾 理事長 米原 亮三

通団連の所属の各団体の意見を踏まえ、通訳案内士制度の継続と、運用の改善を目指して活動していく。

## 第4 事業計画

### 1 会員総数と入会金及び年会費収入

期数	第17期	第16期	第15期	第14期	第13期
年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
個人会員数	1,400人	1,181人	1,082人	1,286人	1,516人
入会金	2,233,000円	1,778,000円	458,200円	360,000円	470,000円
年会費	15,200,000円	13,370,000円	9,942,300円	9,774,000円	11,395,800円
入会金・年会費計	17,433,000円	15,148,000円	10,400,500円	10,134,000円	11,865,800円
同上対前年度比較	115%	145.6%	102.6%	85.4%	81.3%

### 【入会者数と退会者数経緯】

	前年度末 会員数	入会者 数(A)	退会者数	年度末 会員数	退会率	全国通訳案内 士試験合格数 (B)	(A) / (B)
2018年	1,662人	315人	253人	1,724人	15.22%	1,649人	19.10%
2019年	1,801人	176人	275人	1,702人	15.27%	753人	23.37%
2020年	1,702人	94人	280人	1,516人	16.45%	618人	15.21%
2021年	1,516人	64人	294人	1,286人	19.39%	489人	13.08%
2022年	1,286人	65人	269人	1,082人	20.00%	347人	18.73%
2023年	1,082人	254人	155人	1,181人	14.32%	571人	44.48%
2024年目標	1,181人	319人	100人	1,400人	8.47%	未定	

#### 説明

2024年の入会目標は、319人とした。全国通訳案内士の資格を有する者が219人で、外国語の話せる添乗員(ETM)を100人と見込んだ。

ETM制度の円滑な発展と、それにふさわしい訓練プログラムの実施が求められる。

## 2 新人研修

コロナ禍であった 2020 年、2021 年の新人研修は、極めて低調であった。2022 年の新人研修は、関東では 3 月と 6 月にバス研修が実施できた。2023 年は、以下のスケジュールで昨年比、約 1.7 倍の定員で実施する。

【関東】 2 月：2 コース(バス 80 名定員)、5・6 月：1 コース(バス 40 名定員)

	カリキュラム	月日	形態
0	事前研修	2 月 6 日 2 月 10 日 2 月 11 日	対面/Zoom+見逃し配信
1	講義①② 成田空港送迎バス研修	2 月 17 日 2 月 22 日 5 月 25 日	講義①②は対面。
2	箱根バス研修	2 月 23 日 2 月 25 日 6 月 2 日	
3	都内バス研修	2 月 18 日 2 月 24 日 6 月 1 日	
4	日光バス研修	2 月 23 日 2 月 25 日 5 月 26 日	
5	講義③ プレゼンテーション	3 月 17 日 6 月 16 日	講義③、プレゼンテーション共に対面

【関西】 2 月～3 月：1 コース(40 名定員)、6 月：1 コース(40 名定員)

	カリキュラム	月日	形態
0	事前研修	2 月 6 日 2 月 10 日 2 月 11 日	Zoom+見逃し配信
1	講義①② 関空・大坂城バス研修	3 月 1 日 6 月 6 日	講義①②は見逃し配信
2	京都バス研修	3 月 2 日 6 月 7 日	金閣寺、龍安寺、嵐山散策、二条城、伏見稲荷大社
3	京都ウォーキング研修	3 月 3 日 6 月 8 日	三十三間堂、清水寺、建仁寺・八坂神社・祇園、南禅寺、金地院
4	奈良ウォーキング研修	3 月 4 日 6 月 9 日	興福寺、春日大社、東大寺、ならまち
5	講義③ プレゼンテーション	3 月 16 日 6 月 15 日	講義③は動画受講 プレゼンテーションは Zoom

※プレゼンテーションは、上記新人研修以外にも年 2 回実施する。再受講も受け付ける。

### 3 ガイド養成研修

TJT で提供しているプログラムに、また FIT などの様々な要望に対応できるガイドを養成する。

研修プログラム	実施予定等
銀座ウォーキング研修	実地研修（月 1～2 回）
皇居東御苑と日本橋ウォーキング研修	動画視聴&実地研修（月 2～3 回）
谷根千ウォーキング研修	実地研修（月 1～2 回）
国立博物館（東博）ガイド研修	動画視聴&実地研修（月 2～4 回）
横浜ウォーキング研修 A&B	実地研修（各、年数回）
鎌倉ウォーキング研修	実地研修（年数回）
神楽坂ウォーキング研修	実地研修（年数回）
都内バス研修	午前午後 2 コース（年数回）
箱根 金時山・仙石原トレッキングツアー	実地研修（実施日時未定）
富士五合目・河口湖周遊サイクリングツアー	8 月実施予定 1 泊 2 日バス研修
中部バス研修	9 月 6～8 日 高山・白川郷・金沢
関西 5 Days 研修①	9 月 19～21 日 ウォーキング研修×9 コース
関西 5 Days 研修②	9 月 22～23 日 高野山バス研修
関西 3Days 研修	12 月実施予定 ウォーキング研修×6 コース

※上記以外にも自治体案件の実地研修等を複数実施予定

### 4 日本文化研修

TJT で実施する体験プログラムの講師を広く養成する。

体験プログラム	研修予定
寿司づくり	初級、中級、上級、マイスターで実施
築地食べ歩き	講座と実地研修
精進料理体験	実習
和菓子づくりと日本茶 3 種飲み比べ体験	実習
日本酒 7 種飲み比べ	実習
日本茶 7 種飲み比べ体験	初級、中級、上級で実施予定
茶道	初級、中級、上級、マイスターで実施
風呂敷体験	実習
折り紙体験	実習
着物体験	着付けと着せ付けを予定
相撲朝稽古	講座と実地研修
忍者体験・侍体験	実習

## 5 ガイド研修

専門知識・スキルの向上を目指し、以下の講座を実施する。

研修名	
Ash 先生の英語で学ぶ日本文化	全 10 回
*石井隆之先生による「英語で伝える日本の仏教 宗祖と教義の特徴」	全 6 回
*「禅と日本文化」(鈴木大拙著) 講読会	全 13 回
*通訳ガイドが知っておくべき 食文化の歴史	全 8 回
*世界に誇る 日本の美術工芸の系譜	全 10 回
通訳技術養成講座	「基礎」、「実践ゼミ (前期)」、「実践ゼミ (中期)」、「実践ゼミ (後期)」
医療通訳養成講座	全 20 回
プレゼンテーション演習	年 4 回、対面/オンライン、関東/関西

\*の講座は既に終了しているがアーカイブとして、引く続き、動画を販売している。

## 6 バス研修

バス研修	木曽路ガイド養成プラス中部バス研修
	富士河口湖バス研修
	都内バス研修
	島根県バス研修・2 回
	その他

## 7 通訳案内研修 (登録研修期間研修)

全国通訳案内士の皆様が 5 年に 1 度ずつ受講しなければならない登録研修機関による通訳案内研修を実施している。

講座・研修	実績額(円)
2022 年 10 月から 2023 年 9 月まで	2,564,006 円

※東京・関西広域連合だけでも 8 千人以上の未受講者がおり、今後、各自治体からも受講促進の措置が講じられる予定である。当期同等かそれ以上の受講者数が見込まれる。

## 8 旅程管理研修

・True Japan Tour 株式会社が実施する旅程管理研修の実施を受託して、NPO 日本文化体験交流塾が実施する。

・実務研修は、当交流塾の実施する新人研修、富士河口湖研修等の場を活用して実施する。



## 9 外国語の話せる添乗員制度の創設について

### (1) 旅程管理能力を有し、かつ外国語の話せる人材の育成し、確保すること

不足する全国通訳案内士を補完するとともに、観光現場のニーズに即応した人材育成として、「外国語の話せる添乗員」を創設する。

外国語の話せる添乗員は、言語ごとに創設する。

英語にあっては、以下のとおり表現する。

英文表記「English-Speaking Tour Manager」 略称は、ETM とする。

フランス語にあっては、「French-Speaking Tour Manager」 略称は、FTM とする。

以下、同様である。

### (2) 通訳案内士との関係

#### ① 全国通訳案内士の上位性

- ・外国語を用いて、外国人に旅行に関する業務を実施するにあたっては、国家試験合格者である全国通訳案内士を上位としておく。

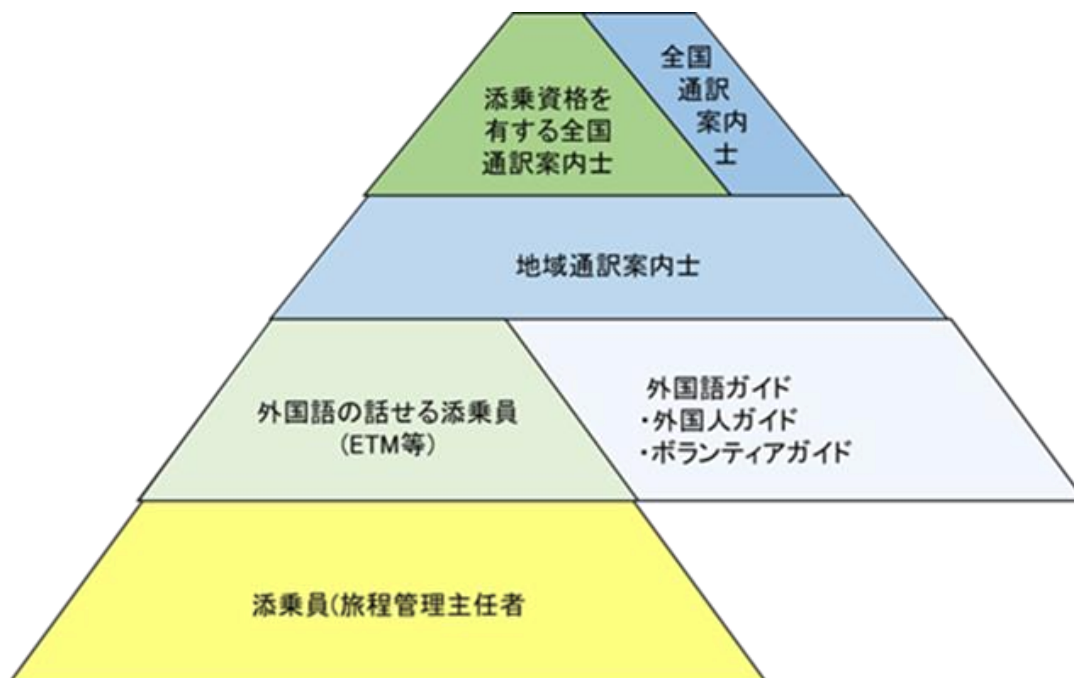
- ・与えられる業務や活動分野が全国通訳案内士に比べて、簡素なため、処遇も全国通訳案内士に比較して、下位となる。

#### ② 全国通訳案内士を目指す者に対する支援・準備等

- ・全国通訳案内士試験の問題が極めて難解で、試験合格が壁となっている。このため、何年も費やして合格に至る者が少なくない。こうした者にとって、収入の確保として、ETM 等を提供する。

- ・通訳案内士試験 1 次試験合格者にとっては、2 次試験が課題となる。2 次試験は、口述の面接試験が中心となる。本試験は、単なる知識を問うのではなく、実際のお客様に対する対応能力が試される。現在、合格率は、50%程度と低い。その理由の一つとして、受験生の経験不足があげられる。

受験生が、ETM 等として、活動することにより、現場感覚を身に着ける。これにより、全国通訳案内士として、飛躍していくステップとする。



### (3) 制度の概要

当面は、1 級及び 2 級の制度を創設する。

種別	旅程管理主任者	認定に必要な条件	活動の場(例)
ETM 等 2 級	有資格者	True Japan School の実施する公開試験において、以下の科目で合格すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・語学（英語）</li> <li>・日本歴史</li> <li>・日本地理</li> <li>・一般常識</li> <li>・通訳案内の実務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理、茶道等の体験講師 (以上については、各専門研修が必須です。)</li> <li>・空港・ホテル送迎</li> <li>・日帰りのガイドツアー(繁忙期であって、遠隔地のクルーズ船など、ほかに、適任者のいないときに限る)</li> </ul>
ETM 等 1 級	有資格者	2 級合格者のうち、IJCEE の実施する新人研修を受講し、プレゼンテーション演習で、一定以上の評価を得た者	2 級 ETM の活動の場に加え、以下の活動が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相撲稽古場見学ガイド</li> <li>・築地ガイド</li> </ul> (以上については、各専門研修の受講が要件となります。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の高校生などの教育旅行における添乗員など、より幅広い活動機会が与えられる。</li> <li>・外国人顧客のいる企画募集旅行等の添乗員として、派遣する。</li> </ul>

## 10 観光庁等の国の助成事業にかかる研修の実施

他団体の事業に関して、通訳案内士にかかるモニターや研修等の一部事業を受託して実施

### ◆スポーツ庁の助成事業

① 相撲文化と墨田の魅力を伝える多言語ガイド育成研修 23年10月実施

### ◆観光庁の補助事業である「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」

② 島根県立美術館と出雲大社、松江城等研修会 23年12月実施予定

③ 香川県瀬戸内アート研修 24年1月実施予定

## 11 出版事業

出版物についても、外国語の話せる添乗員制度においては、当交流塾及び True Japan School の発行する書籍をテキストとする。これにより、出版物の購入数の増加が期待できる。

①自主出版は日本文化体験交流塾が作成して発行している書籍の合算。

#### 【日本文化体験交流塾発行の主な書籍】

通訳ガイドのための観光ガイドブック「京都編」※	2020年発刊。観光地域ごとの歴史を紹介。
通訳案内士のための基本知識 ガイド実務編	新人研修テキスト
国際人のための日本文化の基礎知識	新人研修テキスト
ジャパニーズカルチャーシリーズ	日本文化を体系的に学ぶ基本テキスト 他

※2021年に出版した、東京編以降の「地域の歴史が学べる観光ガイドブック」は、TJ出版から発行。

②著作権収入は、三修社から発行しているテキストの印税収入の合計。

本年度は、以下の書籍のうち、3種の書籍の第2版を発行する。

#### 【三修社より発行している主な書籍】

全国通訳案内士試験「実務」合格！対策	全国通訳案内士試験「英語1次（筆記）」合格！対策 （今年度第2版発行予定）
全国通訳案内士試験「歴史」合格！対策 （今年度第2版発行予定）	全国通訳案内士試験「英語2次（口述）」合格！対策
全国通訳案内士試験「地理」合格！対策 （今年度第2版発行予定）	

※上記の内、英語1次、歴史、地理は2024年1月～2月に更新のうえ、重版（当初3千部）予定。

## 第4 支出について

### 1 ウェブサイトの再構築

改訂予定のホームページ	改修内容	説明
IJCEE 研修サイト	既存の IJCEE のホームページを廃止し、そのコンテンツを TJT ホームページに組み込む。 また、現在、長期継続会員に対する給付制度がある。 その管理が煩雑であり、会員に対するポイント制度を創設する。	現在、IJCEE の基幹的なホームページである <a href="https://www.ijcee.jp/">https://www.ijcee.jp/</a> を TJT が受託して、管理している。 10年を超える運用の結果、ページ数が既に 800 ページを超えており、Jimdo による運用の限界に達している。

会員に対するウェブサイトによるサービスは、事業再構築補助金を活用し、True Japan Tour 株式会社のホームページと統合する。

### 2 職員数（2023年9月末現在）

・常勤職員 1名 ・非常勤 0名

### 3 業務委託費

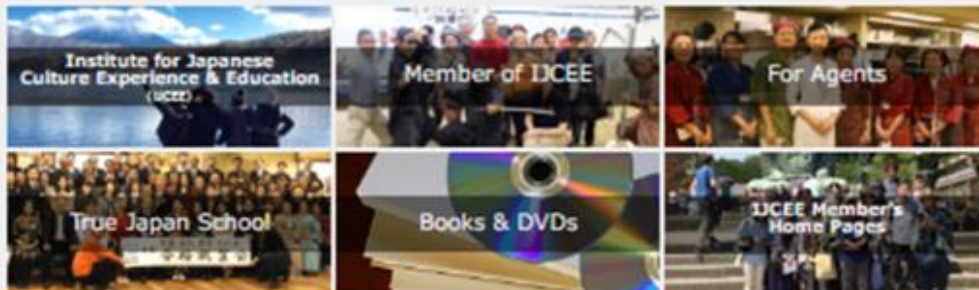
機械振興会館の諸施設は、True Japan Tour 株式会社が借り上げている。日本文化体験交流塾は、こうした施設の利用や、IJCEE への出向社員やスペース利用、光熱水費、通信費、ガイドアサイン等の経費として、業務委託を実施している。



## Activities, Tours, Shops & Information



## Various activities



[More Activities](#)

